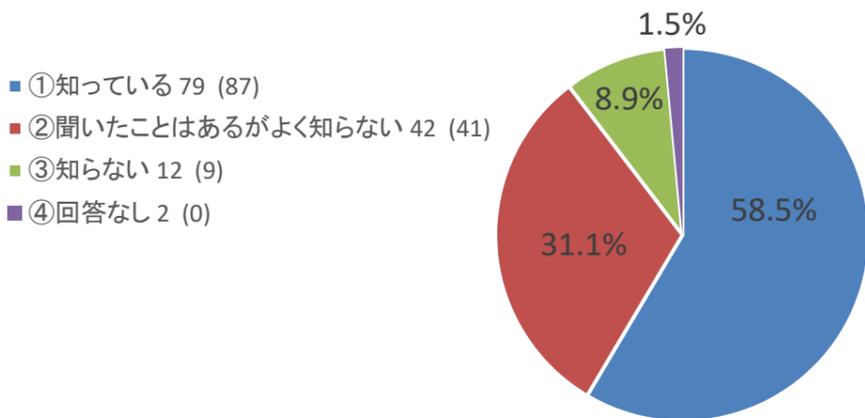


# 令和5年度ご近所福祉ネットワーク活動に関するアンケート調査結果報告

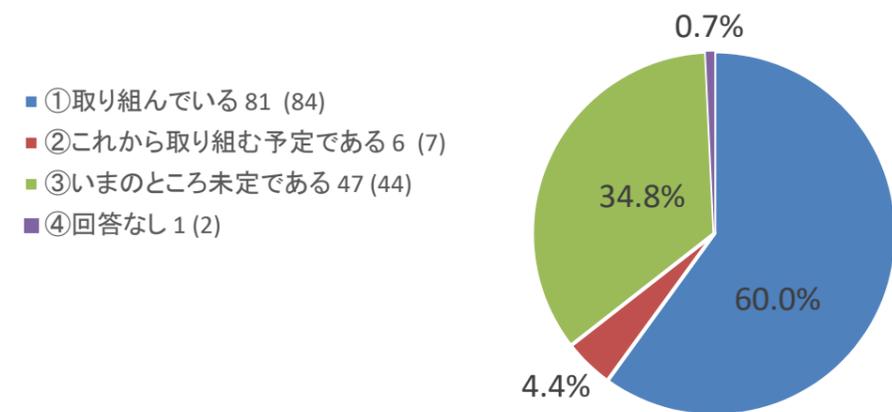
1. 目的  
町内におけるご近所福祉ネットワーク活動の取り組み状況を把握することを目的に実施
2. 実施期間  
令和5年11月13日～令和5年12月20日(再依頼含んだ期間)
3. アンケート対象  
鯖江市内 全区長(153町内)
4. アンケート方法  
全区長あてにアンケートを郵送し同封した返信用封筒にて返送または専用ホームにより回答
5. 回収状況  
回収数 135町内 (137町内) 回答率 88.2%(89.5%) ( )は去年の数

## Q1 「ご近所福祉ネットワーク活動」を知っていますか？



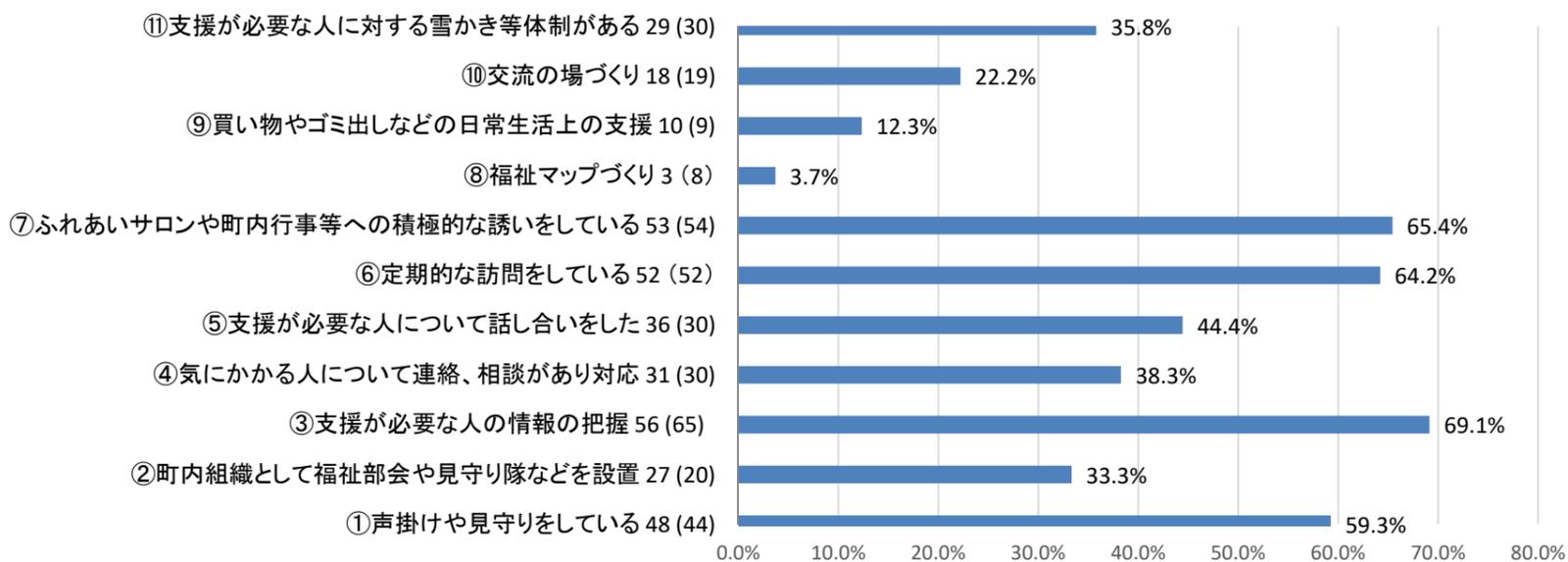
●「ご近所福祉ネットワーク活動」を知っていますかとの問いについて、「知っている」との回答は全体の58.5%、「聞いたことはあるが内容はよく知らない」は31.1%、知らないという回答は8.9%であった。  
●「知っている」と「聞いたことはあるがよく知らない」の回答をあわせて何らかの形で耳にしたことがあるという結果は全体の89.6%となっている。

## Q2 「ご近所福祉ネットワーク活動の取り組み状況はどうですか？



●「ご近所福祉ネットワーク活動」の取り組み状況について、「取り組んでいる」が60.0%。回答があった町内の半数以上で活動が行われている。  
●「これから取り組む予定である」が4.4%、「いまのところ未定」が34.8%となっている。

## Q3 取り組んでいる内容について(複数可)



### その他の取り組み

- ・要望があれば①一人歩き見守り事業②チョイトお助け(近助)事業を健康福祉部会で実施している。
- ・班長が配布物を配布する時に声掛け、あいさつ等をしている。
- ・組織づくりまでには至っていないが近所の方々が気にかけて声掛け等は行っている。
- ・見守りネットワーク委員会の定期開催。様々な仕掛けも考えている。
- ・避難の介助が必要な人を各戸に問い合わせ、回答を得た。

取り組み内容については、「支援が必要な人の情報把握」が69.1%、「ふれあいサロンや町内行事への誘い」が65.4%「定期的な訪問をしている」が64.2%と比率が高く、以下「声掛けや見守り」が59.3%、「支援が必要な人について話し合いをした」44.4%と続いている。

Q4 現在、取り組みをしている中での課題、今後、取り組んでいくにあたっての課題がありましたらお聞かせください。

区長をして独居高齢者で初めて名前を知った方が若干名いた。今年度「避難行動計画」の対象者を決めるに際して役員向けに高齢者の名簿をつくりたいと考えているが個人情報の観点から作ってよいものか悩んでいる。老人会は希望者のみの構成でその名簿はあるのですが…
本町3丁目は民生委員が本町2と旭町2を兼ねている。こちらから言いにくいこともあるし、相手から聞きにくいことも多い。3町内兼ねるより自分の町内で実施できるシステムにしてほしい。
高齢者単独世帯の資源ごみへの対応。
民生委員と必要な人にはご近所の人に対応している。
町内の高齢化が深刻化しました、就業年齢が引き上げられる傾向により活動主体となるスタッフは町内にほとんど見当たらず将来の見込みもない。現在活動が可能な町内でも将来町内任せの無償ボランティアでは限界があると思う。町内に委ねるのではなく社協や自治体が妥当な有償手当支給、専門知識を有するスタッフの配置、必要に応じた活動原資として町内負担金の徴収などを検討すべき。この活動が真に必要なならば「ご近所福祉」などと安易に町内に頼らず、国、県、市などの行政機関や社協が再度真剣に検討すべきである。
区長、民生委員と共に声掛けをやっているがそれだけで精一杯である。
自治会依存では進まないし進められない。市としてどのように展開していくのかの考えが必要。
今後若い人への承継。若い方々の無関心。若者気質の理解。
我が町内でも高齢化が進みひとり暮らしや老夫婦が多くなってきている。昔からの町内でもあり近所付き合いもよくしているので何かあった時は相談にのっている。
交流の機会を増やそうとしているが、長く続いたコロナの外出自粛の影響なのか、集まることに消極的になっている。
要支援者が増えていき、支援者も高齢化が進み支援ができなくなることが予想される。
行政関係からの情報が少なく、個人情報保護等で理解できるが疑問を感じている。
ひとり暮らし高齢者の情報は民生委員児童委員が把握しているが、日中独居の徘徊者の情報は事前に入っていない。
福祉委員になってもらえるようお願いしたら皆さんサロンを続ける自信がないとのことだった。提出する書類が詳細すぎて大変とのこと。住吉町3丁目は福祉委員をしばらく置くことができない。サロンは有志でやってくれる人がいたらやりたい。
民生委員さんの活動として声かけ、見守りをしている。民生委員制度とのかかわりがよくわからない。
高齢化世帯が多く、対応する人員が少ない。
毎年、役員が変わるので特に何かに取り組んでいるわけではないし、新しいことを始めるのも難しい。
近年60歳代ではまだ仕事をしている割合が多い、その中で活動が大事なのはわかるが体力的、精神的に余裕がないのが現状。負担にならない程度の活動が課題と考える。
個人情報の取り扱いについて迷うことがある。
個人情報により本人同意により町全体で見守りできるようにできるか。情報が特定の人にしか提示できなく対応が難しい。
町内で支援が必要と思われるひとり暮らしの人でも自分から断ってくる人もいる。(高齢者でも自分は元気であるから)
高齢者の状態はまあまあ把握できているが子育てに関し気がかりな子どもたち(父兄含む)の情報が全くない。市に問い合わせても個人情報の観点から教えてもらえないので困っている。
組織的活動ができていない。
若い世代の参加。
サロン開催会場準備にあたっては机、椅子を軽い物に変える必要がある。お世話する福祉委員も高齢者が任務を遂行している。
福祉委員の後継者がいない。
ご近所福祉ネットワークと防災福祉委員会活動が重複している部分が多い。
現在町内として組織化はしていないが40軒と小さい町内であり人手的にも組織化することは難しいと考える。しかしながら従来から自然に声掛けや除雪応援など行っている。
ひとり暮らしの方で民生委員の訪問を受け入れない人もあり、定期的な訪問ができない人もいる。(全く訪問できない状況ではない。定期的な訪問を必要としない)
老人会があるがやめる人が多く困っている。
福祉全体の問題として、当区は福祉事業部を設置しているが抱える問題が非常に多く、ご近所ネットワークに関する問題は部員が民生委員、福祉委員で構成している為、個人で対応しているのが現状。テーマをご近所ネットワークに置き対策まで持って行きたいが、そこまで部員に気力が無いのが実態。
取り組む組織の人集めが大変である。組織ができて継続するか不安である。
当町内では見守り会という組織があるが神明地区のなかでも高齢化が進んでいる町内なので今後さらに見守り会の活動が重要になってくる。役員の年齢も高齢化しているのでそれが問題。
11/19 初寄合を行う予定。停止しているサロンを復活させるために対応している。
福祉委員が中心となって、ふれあいサロン等の活動をしてもらっているが、町内会として、活動をしようとする、個人情報の開示、共有が必要となる。支援の必要な人の情報、声掛けや見守りを必要とする人の情報や身近な家族の情報を提供すること、町内で情報共有することの本人了承が必要となると思う。また、町内会の区長をはじめ役員も年々変更していく中で、情報管理の難しさを感じる。
区長として任期が残り少ない中なので、来年度の区長にも話をして新年度が始まった中で早急に民生委員や班長・役員とも会合してもらい活動してもらおうよう伝えようと思う。
町内役員の情報共有が重要。個人情報の関係で難色を示す方もいる。
ネットワークの組織は立ち上げていないが、Q3の1.3.5.6.7を区長、民生委員、福祉委員が実戦している。令和6年、町内対象に集落センターを開け、時間を決め年齢制限なく来ていただく様にする。11は区長が支援出来る体制にしている。
橋立町は戸数が少ない地区なので町内の福祉に関することは、民生委員や区長が関わっているのでは今のところは考えていない。
形式的枠組みはできていても実効性のあるものにするのは、いずれの課題も極めて困難である。
町内事業内容を通じて無理なくご近所のつながりを持ちたいと思っている。コロナ以後希薄になっているような感じがする。

支援者が高齢化してきて活動も制限される。
町内で協力体制ができており、特に課題はない。
『助けて欲しい』と自ら言えない人に積極的に参加していただける様にする持っていき方。
小さな集落でありサラリーマンが多くマンパワーが不足している。
令和元年に福祉部会を立ち上げ話し合いをした(6月・12月)その後コロナ等もあり休会状態。支援が必要な人の支援者を見直したりしている(民生委員)現在は情報を共有しているが、今後は見守りをする方をどなたに、どのくらいの期間お願いするのか委員会で話し合いたい。
今後、町内住人の高齢化が進み高齢者世帯やひとり暮らし高齢者が増えてくる。行政だけにこの問題をまかせるだけでは福祉などがいき渡らないと思っている。ご近所福祉活動が今後もっと必要になってくると思われる。
支援者になってもらえるような人材が乏しい。仕事を持っている人が多く定年後でも再雇用等で仕事を続けるため頼みづらい。そんな中でも少しでも支援の方法を探っていきたいと思う。
福祉委員、老人会女性部、民生委員等それぞれの活動でひとり暮らしの人の訪問などしている。これらの役の人も60代後半70代の人たちで元気な高齢者の活動となっており、これ以上は難しい気がする。
今後の課題として、区長以外の担当者が必要(特に定年を迎え引退をして、常に町内にいる人が好ましいと思いますが・・・難しい)現実、私も仕事柄出張が多く(月に15日～20日位)家に居ない為、民生委員・福祉委員の方に負担がかかりますが、お願いしている。
防災・福祉委員会の設置など人員が限られている中で類似性がある活動が多すぎるので市役所のなかで整理して効率の良い活動を提案してほしい。民生委員、福祉委員を含めた横断的、一元的な活動。
町内が小さいので情報把握はできている。
同居世帯が減少しご近所付き合いが希薄になる一方でネットワーク構築が難しくなっている。昔のように青年団壮年団実年団老人会といった流れは途絶えた感がしている。いまさあどうなるものかと諦めてしまった。残念ですが・・・
サロンの誘いをしているが坂道が多くて歩くことが困難な高齢者が多くなってきたので、コロナ禍後会員が減ってきた。
区長だからといって巻き込まないでほしい。社協単位で活動してください。
働く高齢者が増えているため、サポートする側が日中不在の場合が多い。
町内の皆さんに理解してもらえるか。皆さんからは係が増えるのではないかとされている。
高齢な方でも仕事をされている方も多く生活に余裕がなくなりつつある。早く定年退職して福祉ネットワークに参加できる人員の把握からコツコツと始めなければならぬと思う。60歳後半の若い方(リタイアした)には参画していただける方が少ないのが現状なのではないかと思う。
今のところ未定のため取り組みを進めているところに内容を聞きたい。
戸数が16軒と小さい町内なので住んでいる人は皆知っており、コミュニケーションもとれていると思う。Q3の項目はほとんど実践されている。ただ新しく越してきた若い世代との交流がない。町内行事に出てこない人もいようになった。全体に若い世代の人と交わろうとする気が少ないと見えている。
現在は、区長や民生委員を主に活動しているが、後任者が果たして継続してもらえるかは不明であり、班長等に意識の高い人が少ないのも今後の課題。
災害時の対応。
日野町は出入りも激しく、近所付き合いもほぼないので難しい。
支援が必要な人の情報は、個人情報の中からみでなかなかこちらから連絡は取りにくく、該当者の有無を把握しにくい。
組織継承が浸透していくか。民生委員福祉委員担い手不足状況によって弱者高齢者への寄り添いができなくなる不安がある。活動には最小限の費用負担。今後の補助金が安定してもらえるか。
民生委員とは時々話をしているがまず「どこから始めたら良いか」知りたい。
若い人たちが年配の人のことを知らないので交流があればよい。
玄関で声掛けしてもなかなか出て来れない。デイケアに行っている人が多く日中家にいない。サロンはホームで行っていると思う。
住民の中には ネットワークに積極的に参加する割合が低い場合があると思う。イベントの開催など参加を促進する手段を検討する必要がある。
鯖江市や社協など団体や町が本人申請以外の必要な支援者の確認方法や共有をどのように行うかが課題。
コロナ以降高齢者が交流する機会が激減している。福祉部会で高齢者が集う機会づくりなど話し合った。
班長、女性部も来年度からはネットワーク活動に協力してもらおうと思っている。
今後支援が必要な人が増えてくると把握が難しくなってくる。あまりしつこく聞いて回るとそれはそれで踏み込みにくい。
役員をしてもらえない。
高齢者の増加。
特に過疎化が進みネットワーク内の負担が過重になっている。50～60代のほとんどが町内の役員をされており大変。